

## 12. 粗朶消波工に関するとりまとめ

### 流出した粗朶や杭は、周辺環境（景観や漁網、河川管理構造物）へ悪影響

- ・内蔵粗朶の流出は波浪の強い地区では整備後1年で発生し、整備後約2年半程度で波浪の弱い地区でも流出する。
- ・内蔵粗朶はその水中部では比較的劣化が少ないが、水面上部では劣化及び流出が著しい。
- ・粗朶工の骨格を構成する木杭は、5年程度で水面上の杭部が劣化し、垂直杭を連結している横木、縦木などが周辺に流出し、景観、漁網、河川管理構造物などに影響を与えている。
- ・以上の点から、整備後5年間程度で、粗朶消波工の改修を実施することが不可欠となっている。

#### 流出した粗朶の状況

##### H15年7月（整備のち約1年経過）

初期は、波浪の強い地区、境島(0.3m)、根田(1m)、石田地区(0.6m)で内蔵粗朶の減少量が大きかった。波浪が弱い地区である、鳩崎、石川地区はほとんど減少していなかった。

##### H16年10月（整備のち約2年半程度経過後）

粗朶消波工の内蔵粗朶が、波浪が大きくない地区、鳩崎、石川地区でも、H14.3完成後、2年半程度経過した時点で、高水位により大量に流出し、背後の緊急対策工の植生生育部に堆積した。



打上げられた粗朶（境島）



平成16年10月  
鳩崎地区 台風22号高水位後 内蔵粗朶大量に流出



平成16年10月  
石川地区 台風22号高水位後 内蔵粗朶大量に流出

##### 平成18年9月（整備のち約4年経過）

消波工から流出した内蔵粗朶が河川管理構造物(樋管)に大量に流入



平成18年9月 樋管内部の粗朶流入状況



平成18年9月 樋管からの粗朶撤去作業状況